

道徳教育地域支援委託事業実施報告書(平成30年度)

1 学校の概要

- (1) 学校名 高松市立国分寺南部小学校
(2) 所在地 高松市国分寺町福家甲3005番地
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (平成30年4月1日現在)

Table with 9 columns: 第1学年, 第2学年, 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年, 特別支援学級, 児童数計, 教員. Rows show 3学級 (99名) and 4学級 (107名).

2 研究主題等

(1) 研究主題

自分も人も大切にし、互いに学び合える児童の育成
～じっくり聴き、しっかり考え、豊かにかかわる集団づくり～

(2) 研究主題設定の理由

全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査の結果から、本校の児童は規範意識、学習意欲、自尊心が低い傾向にあり、各教科の正答率にもやや課題がある。授業中の学び合う場においては、自分の意見を発表し合う段階で終わることが多く、友だちの考えを深く理解しようとしたり、自分の考えに生かしたりすることが十分できていない児童もいる。また、教職員による学校評価の中には、道徳の時間に学習したことを生活の場で実践する力を育てる手立てが必要ではないかという意見がある。そこで、互いの考えを大切にしながら学び合う集団づくりをさらにめざしたいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究内容及び方法

①道徳授業の充実(道徳的価値認識の場)

- ・新しい教科書教材の活用の在り方
・道徳の時間の評価に生かす道徳ノートの在り方

②「徳の日」を中心とした社会に開かれた教育課程の充実(道徳の実践力育成の場)

- ・地域と連携した学校行事「ふるさとワーク」と各教科等との関連(10月)
・国南スマイル集会(人権集会)に向けた取組(11月)
・縦割り活動「ゆめピカ7」の工夫(各学期1～2回)

3 研究実践

(1) 道徳授業の充実

① 道徳教育全体計画・別葉・年間指導計画の作成

Table with 12 columns (months) and 4 rows (道徳, 各教科, ねらい, etc.). Contains monthly lesson plans and goals.

Table with 12 columns (months) and 4 rows (道徳, 各教科, ねらい, etc.). Contains monthly lesson plans and goals, including a '別葉' (separate leaf) section.

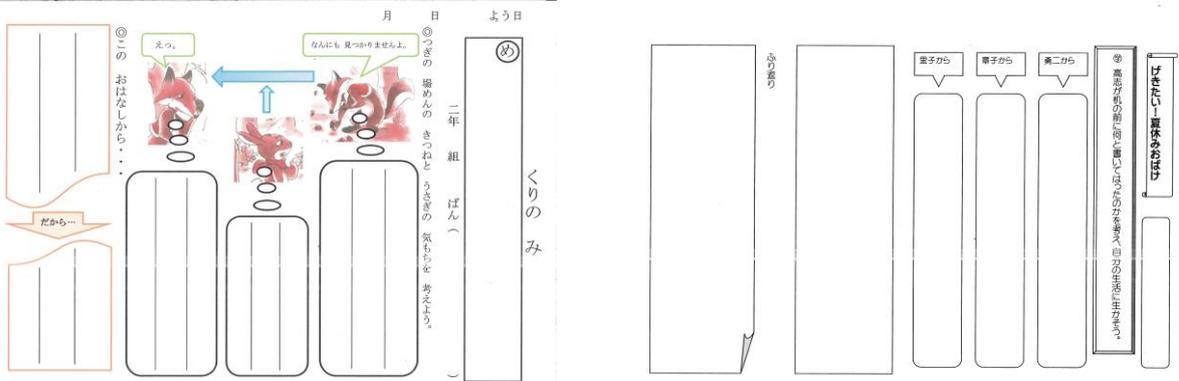
～ 別葉 ～

「特別な教科 道徳」がスタートするにあたり、年間35時間必ず実施するため、4月に教育活動全体で行う道徳教育を全職員で共通理解した。各学年ごとに学習状況調査等の結果などを参考にしながら、児童の実態を見つめ、課題を明確にした。今年度子どもたちに付けたい力や伸ばしたい力を考え、年間指導計画の見直しを行い、別葉を作成した。全職員がチームとなり、授業改善や道徳教育の推進に取り組める体制作りも行った。

② ワークシートの工夫

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習「考え、議論する道徳」を目指し、ワークシートを次のように改善した。

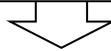
今までのワークシート



書くこと重視

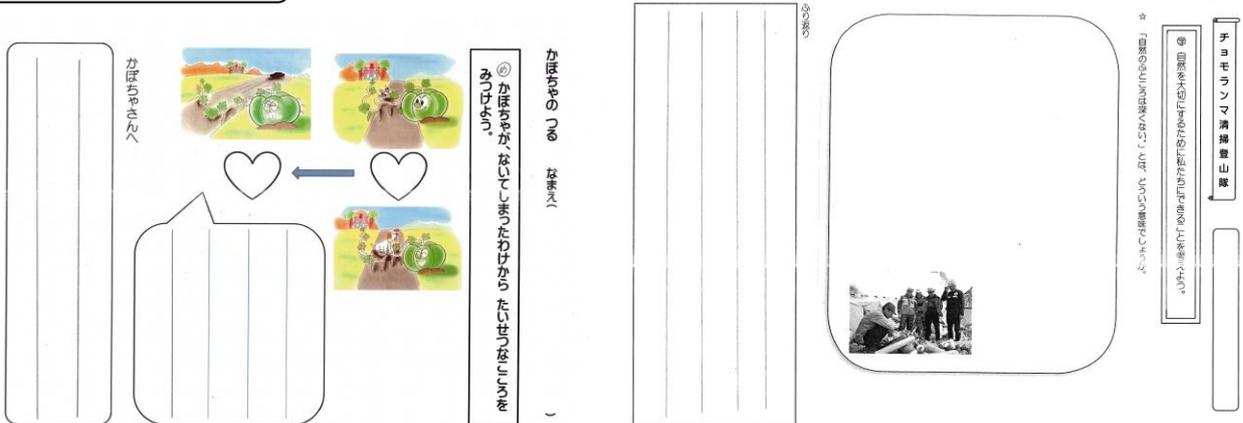


- ・読み物教材の登場人物の心情理解のみになってしまいがちになる。
- ・分かり切ったことを言わせたり、書かせたりしてしまいがちになる。
- ・書いたことの発表のみになり、自分の考えの広がりや深まりにつながらない。



☆ 書くところは2か所(中心発問に対する自分の考え、ふり返り)

改善後のワークシート



☆ 「徳の日だより」「徳の日」コーナー

月に一回程度「徳の日」を設定し、道徳的な価値を考えたり、保護者や地域の方と連携して、道徳的な価値について考え話し合ったり、行動したりする日としている。様々な行事や活動を通して、児童の「生きる力」を育てることをねらっている。各学年ごとに団だよりに「徳の日」コーナーを設定し、今月の予定やねらいなど、また子どもたちや保護者の感想をお知らせするようにした。学校の取り組みを知ってもらえたり、子どもとの会話のきっかけになったりした。

① 地域と連携した学校行事「ふるさとウォーク」との関連



～ ふるさとウォークの様子 ～

本校では、10月にふるさとウォークを行っている。ふるさとウォークは、郷土の歴史や文化、人々などに親しみ、郷土を愛する気持ちをもつことをねらいとし、保護者と子どもと一緒に地域のポイントをコースに分かれて探索する行事である。学級担任が児童にふるさとウォークのねらいや地域の方の思いや願いを話し、なぜ20年間も続いているのかを考えて参加できるようにしている。また、道徳の時間には道徳的価値(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)について、「ふるさと香川」を活用して学習した。道徳の時間に学んだことをふるさとウォークにどのように生かしていけばよいのか各学年に応じて考え、取り組んだ。

4年 ～空海と満濃池～

ふり返り大切なふるさとを大切にしたい
いざなぎ、いざなげ

ほぼ国分寺町にずっと住んでいて思えば出かあり大事な場所でもあり自分のふるさとであるこの町をもっと守りたいと思いたい。ほぼは地王塚のようなくみんすのふり返りを
変えたり、人々と共にあつた工事はできなければいけません。でも自分を支えてくれた人々を大切にしたい。家族にも大切にしたい。

① 国分寺町に感謝の気持ち
② まれて田畑を守ることができなくなるのはもったいない
③ 自分たちのふるさとを守りたい
④ 住むところがでまわりの場所
⑤ 育った場所
⑥ 思いのある場所
⑦ 大事な場所
自分たちのふるさとを大切に守りたい

ふるさとウォーク
十月三日(土) 晴

地いさの方へ感謝の気持ちをもってあいさつなどしていきたくてですね

空海と満濃池
名前

国分寺町 空海と満濃池

私は今日、ふるさとウォークをしました。春日神社の入口にどんぐりが落ちていました。歩いていたら、かきも見つけました。地いさの方や先生は、こまめにふるさとウォークを歩かれています。ありがとうございます。

国分寺町 空海と満濃池
ボランティアの参加を促して、私たちが見守っていること、と思いました。

歩くと、秋を見つめられるのはもちろん、地域の方々のあたたかさや、あたたかみを感じました。

道徳的な価値内容と関わる行事や縦割り活動等を「徳の日」と位置付けて、全校で取り組むことで、道徳的価値資料から大切なふるさとを守りたいという人々の思いに気付くことができた。そして、地域の方に感謝の気持ちを伝えたい、もっと国分寺のよさを見つけないというめあてをもって取り組めた。

③ 縦割り活動「ゆめピカ7」の工夫



～ボランティア清掃の様子～



～ゲームの様子～

ゆめピカ7とは、1～6年生が縦割りでグループを作り、異学年で遊んだりボランティア活動をしたりする活動である。6年生が、グループの人が楽しんだりスムーズに活動できるようにしたりするために、相手のことを考えて細かく計画を立てている。ボランティア活動では、玄関付近や廊下の掃除をしたり、外に出て落ち葉拾いや石拾いをしたりと学校をきれいにするために、グループの人と協力して取り組んだ。上学年の人が下学年の人に掃除の仕方をアドバイスする姿もよく見られた。「学校のために」「みんなのために」という気持ちが、学年を超えて広がっている。

(3) 教員の指導力向上について

☆ 研究授業

現職教育で、研究授業3(1年 2年 3年)本を実施し、道徳授業の在り方について全職員で研究を深めた。

3年 ～正しいことは自信を持って～



自分の考えを選択する場の設定

自分の考えを選択する場を設けることで、自分の考えを持ちにくい児童も選択肢から自分の考えに近いものを選択できるようにした。自分が選択した理由を考え、自分の考えを明確にできるように工夫した。個人の考えは帽子を使って可視化した。

ペアトークをする場の設定

ペアトークの場を設定することで、一人一人が自分の考えを友だちに話したり、友だちの考えを聞いたりできるように工夫した。まず、1対1で自分の考えを相手に伝え、否定されることなく、受け止められる体験を積み重ねていくことで、安心して自分の考えを伝える雰囲気作りにつなげるようにした。



2年 ～正しいと思うことをする～



「まなボード」を使ったグループ交流

「まなボード」によって、自分の立場を明確にした。そうすることで、グループ交流の時、対話する中で有効に活用することができた。「まなボード」は、より自分の本当の気持ちを表すための支援として使うことができた。

1年 ～それをしてもいいのかな～

役割演技による対話の場の設定

役割演技により、人間理解、他者理解、自己の生き方との関わりについて考えを深めることができるようにした。価値理解の後、役割演技を通して対話することで、「いけないことはきちんと謝る」ことは理解できた。が、行動することの難しさを感じることもできた。



☆ 講話

香川大学教職員大学院 教授 植田和也氏による道徳授業の在り方についての講話を行った。「特別な教科道徳」で求められる授業づくりについての講話を聞いた。学習指導要領のもとに「特別な教科 道徳」の基本的な考え方から指導してくれた。授業を組み立てる時のポイントや教員の授業力を向上させるためにできることなど分かりやすく指導してくれた。その結果、授業改善のポイントや評価の仕方などを全職員で共通理解することができた。

4 研究の成果と課題

- 学級、学年団経営、特別活動、他教科等における道徳教育の意図的・計画的な実践を積み重ねることができた。
- 新しい教科書を活用した道徳授業の在り方や道徳ノートの活用法について全職員で共通理解を図りながら、チームとして研修を行うことができた。また、学年団で協働して授業研究に取り組むことができた。
- 道徳的な価値内容と関わる行事や縦割りの活動などを「徳の日」と位置付けて、全校で取り組むことができた。道徳的価値に関わる児童の意識の向上や保護者や地域との連携を図ることができた。
- 年間指導計画に沿って授業に取り組むことで、年間35時間の授業時間を確保することができた。
- 実践のみならず、評価や改善を行うことで、各学年の授業実践に質的な改善が見られるようになった。
- 児童が自分の事として考えることができるようにするために、中心発問や話し合いの時間確保など授業作りの手立てが必要である。
- 今年度、学校教育目標のもと、重点内容項目を定め、他の教育活動と関連した年間指導計画を作成し、取り組んだが、その都度見直し、よりよいものにしていく必要がある。